

「更生保護」という活動があります

安全で安心な社会をつくるため、犯罪や非行を予防し、あやまちをした人の

立ち直りを地域社会の中で支えていこうというもの

大切なのは、立ち直ろうとする人の意志を、

わたしたち一人一人が受け入れ、

あやまちを繰り返すことがないようにサポートすること

現在、全国約26万人ものボランティアが参加する「更生保護」

あなたにも、かわりがあることとして、考えてみてほしいのです

【問】福祉課 ☎ (56) 22224

更生保護

ここにも一つの物語。広報かわねんちよう



この3点を行動目標に掲げ、運動を展開しています。

活動実績を紹介

町では、7月の「社会を明るくする運動」強調月間の期間中に、街頭キャンペーンや犯罪予防にかかわる関係者との情報交換会などを実施しました。

1 街頭キャンペーン

強調月間初日の7月1日、午前7時20分から50分ごろまでの約30分間、街頭キャンペーンを実施しました。

参加したのは町内保護司、更生保護女性会会員、町議会議長、町内駐在所警察官、町社会福祉協議会長、中川根中

社会を明るくする運動

この運動は、更生保護の考え方を基本として、
①犯罪や非行をした人の立ち直りを支えよう
②犯罪や非行に陥らないよう地域社会で支えよう
③①②について、地域社会の理解が得られるように協力しよう

保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支えるボランティアです。

主な仕事は、保護観察を受けている少年や大人へのアドバイス、刑務所や少年院に入っている人の居住先の調整などです。また学校と連携し、非行を未然に防ぐための活動も展開しています。

保護司

島田地区保護司会川根本町支部では本年度、新たに2人の女性保護司が誕生。現在8人の保護司で活動を実施しています（敬称略・順不同）。
原田全修（瀬平）、堀井隼年（崎平）、中村優（寺馬）、高畑雅一（上長尾）、森博士（徳山）、芹澤徳治（小長井）、栗原春子（地名）、前田さとみ（上長尾）

更生保護を支える人々

つくるのが大切です。

地域社会で支える更生保護

あなたは「更生保護」という活動を知っていますか。

更生保護とは、犯罪や非行をした人が、同じあやまちを繰り返さないよう、みんなで見守りながら支えていく活動のことです。安心・安全な、明るい地域社会を築くためには、これから真面目に頑張りたいという人を素直な気持ちで受け入れ、2度と同じあやまちをさせない家庭や地域を



強調月間初日の7月1日、街頭啓発キャンペーンを実施しました。更生保護に関係する約80人の参加者が啓発用のタスキをかけ、のぼり旗を手に、非行防止などを呼びかけました。右上/田代トンネル前でのぼり旗を手に啓発 左上/大井川鐵道千頭駅前で通学中の高校生にリーフレットを配布 右下/更生保護女性会の会合

学校長、中川根中学校PTA会長、本川根中学校長、本川根中学校PTA会長、県立川根高等学校長、町民生委員・児童委員協議会正副会長、町内人権擁護委員、町長、副町長、教育長職務代理者（教育総務課長）、総務課長、総合支所長兼商工観光課長、福祉課長、生涯学習課長、川根本町明るい町づくりの会事務局（役場総務課、福祉課、生涯学習課）の約80人。町内6カ所に分かれた参加者たちは、肩にタスキをかけて手にのぼり旗を持ち、国道および県道を通行するドライバーなどに啓発しました。

2 ミニ集会

（町内の小学校、中学校との連携）
8月上旬、町内の各種相談業務に携わっている保護司、更生保護女性

会役員、民生委員・児童委員の代表、人権擁護委員に、町内の小・中学校長が加わり、山村開発センターで情報交換会を開きます。会では、社会を明るくする運動の啓発や犯罪予防、非行防止に関する情報を交換します。

3 リーフレットの配布

町内の全世帯および川根高校の生徒に、啓発用リーフレットを配布しました。

4 川根高校との連携

8月上旬、川根高等学校を保護司が訪問し、犯罪予防、

非行防止などに関する情報交換をします。

詳細はホームページで

更生保護や社会を明るくする運動の詳細は更生保護ネットワークのホームページで紹介しています。更生保護にかかわる人たちのインタビューや社会を明るくする運動の情報などが掲載されています。興味のある人は、ぜひ、ホームページをご覧ください。更生保護ネットワークのホームページはこちら <http://www.kouseihogo-net.jp>

更生保護における犯罪予防活動

